

令和2年度決算がまとまりました

医療費が減少し黒字となるも、
先行きは不透明に

第121回組合会において、当健保組合の令和2年度決算が可決・承認されましたので、お知らせします。

財政の危機がコロナによって
1年前倒しに

健保組合をめぐる情勢は、以前より指摘されていた医療保険制度の「2022年危機」に加え、新型コロナウイルスの感染拡大が、健保組合財政をますます厳しい状況に追い込んでいます。「2022年危機」とは、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に到達し、高齢者の医療費にあてられる納付金が急増するため、私たちの負担がさらに重くなることですが、新型コロナウイルスによって、財政の危機が1年早く到来

令和2年度収支決算概要

《健康保険》

■収入

科 目	決算額(千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,351,095
健保組合が互いに出し合って助け合うお金 (調整保険料)	29,628
そ の 他	48,488
合 計	2,429,211

■支出

科 目	決算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに 健保組合が負担した保険給付費	1,205,765
高齢者の医療に使われた納付金	828,121
健康づくりに使われたお金(保健事業費)	111,692
健保組合が互いに助け合うための拠出金	29,480
そ の 他	51,544
合 計	2,226,602

《介護保険》

■収入

科 目	決算額(千円)
みなさん※と事業主から納められた 介護保険料	237,347
雑 収 入	18
合 計	237,365

■支出

科 目	決算額(千円)
国に納める介護納付金	234,489
介護保険料還付金	19
合 計	234,508

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等



するものと見られています。

このような状況下、当健保組合の令和2年度決算がまとまりました。収入総額24億2921万円、支出総額22億2660万円、差引額2億261万円となり、単年度の実質的な収支である経常収支においても経常収入額23億5482万円、経常支出額21億9712万円となり、経常収支差引額1億5770万円の黒字で終わることができました。

納付金は減少したものの負担は依然として重く

収入では、財源の柱となる保険料が前年度比6695万円減少の23億5110万円となりました。

支出では、みなさんの医療費や出産などの給付金として保険給付費が、前年度より4922万円減少の12億577万円となりました。前期高齢者納付金や後期高齢者支援金など高齢者の医療費にあてられた納付金については、同比1億5066万円減少の8億2812万円となりましたが、保険料に占める割合では35%となり、たいへん重い負担となっています。この過重な負担は長年に

わたって続いており、納付金額は健保組合の自助努力で減少させることもできないため、健保組合財政を追い込む要因となっています。

このほか、健診やインフルエンザ予防接種の費用補助など、みなさんの健康づくりのサポートとして保健事業費が前年度とほぼ同額の1億1169万円となり、コロナ禍においても積極的に事業を行いました。

以上の結果、かろうじて令和2年度の決算は黒字とすることができましたが、当健保組合の財政は納付金負担によって厳しい状況に置かれており、また、現在の高齢者医療制度のもとでは、今後の財政について好転を見通せないのが実情です。

みなさんには、健診で指摘されている項目があれば、早めに治療を受けていただいたり、さらなる健康増進をめざして、毎日の運動習慣や日々のリフレッシュなどで健康にお過ごしただきますようお願いいたします。みなさんが健康であれば、医療費の削減につながり、健保組合財政にとって一助となりますので、ご理解・ご協力をいただけましたら幸いです。

被保険者1人当たりでみた収支決算（健康保険）

収入合計 461,213円

健保組合が互いにし合って助け合うお金（調整保険料） 5,625円（1.2%）

みなさんと事業主から納められた保険料
446,382円（96.8%）

その他 9,206円（2.0%）

支出合計 422,746円

健康づくりに使われたお金（保健事業費） 21,206円（5.0%）

その他 9,786円（2.3%）

病気やけがやお産をしたときに
健保組合が負担した保険給付費
228,928円（54.2%）

高齢者の医療に使われた納付金
157,228円（37.2%）

健保組合が互いに助け合うための拠出金 5,597円（1.3%）

※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります